

WATCH BOOT
nino
RPC-M2C

詳細版

■ 取扱説明書 ■

明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

WATCH BOOT nino RPC-M2C をご購入いただき誠にありがとうございます。

WATCH BOOT nino RPC-M2C はネットワーク経由でシステム機器の制御／管理をする自動電源制御装置です。2個の100VAC電源を個別に遠隔制御／管理できます。またNTPサーバに接続することにより、週間スケジューラーとしてもご利用になります。

WATCH BOOT nino RPC-M2C が皆様の所有されるネットワークシステムにおいて、有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

この取扱説明書を必ずお読みください

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。

ご使用前に、必ず本書をお読みください。

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. 取扱説明書（保証書）
2. アース線



当社ホームページ (<http://www.meikyo.co.jp>) にWATCH BOOT nino RPC-M2C にとって便利なソフト等がありますのでダウンロードしてご利用ください。

1. 取扱説明書（詳細版） PDF ファイル（本書）
2. ユーティリティソフト
3. RPCサーチソフト
4. ネットワーク稼動監視ソフト
5. プライベートMIBファイル

安全上のご注意



この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊘は、禁止（してはいけないこと）を示します。具体的な禁止内容は ⊘の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	●は、強制（必ずすること）を示します。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

●万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●AC100V（50または60Hz）以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧（交流100V）以外の電圧で使用しないでください。特に110Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流100V

●本装置の電源アースあるいはFG端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはFG端子を接地してください。感電や故障の原因となります。



アース接地

●本装置後面のACコンセントは10Aまで

本装置後面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で10Aです。合計10Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量10Aまで

●たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

●電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用

警告

●ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります。



ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

●異物を入れない

製品に、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない

スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、FG端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。



雷のときは、触れない

●分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、前面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



電源プラグを抜く

注意

●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

●風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

●温度が高くなるところに置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

●お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください（絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください）。薬品類（ベンジン・シンナーなど）は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行ってください。感電や故障の原因となることがあります。



電源プラグ
を抜く

●湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

●逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

●電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

●本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手の届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

●花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

●踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

目次

第 1 章	はじめに	11
1	機能概要	
2	各部の名称と機能	
3	DIP スイッチの設定	
4	LED 表示について	
第 2 章	設置・取り付け	16
1	設置・取り付け	
2	ラックへの取り付け	
3	固定方法	
第 3 章	初期設定	18
1	初期設定	
2	初期化の方法	
第 4 章	Web ブラウザでの設定、制御	23
1	ログイン	
2	設定項目	
	基本設定	
	基本設定	
	仮想アウトレット設定	
	セキュリティ設定	
	ユーザーアカウント設定	
	ユーザーアカウント設定	
	セキュリティ詳細設定	
	通信設定	
	通信基本設定	
	通信詳細設定	
	メール設定	
	監視設定	
	PING 監視	
	POP サーバ監視	
	スケジュール設定	
	システム情報	
	PING 送信	
	簡易説明	

	3	状態表示項目	
		簡易情報表示	
		監視状態表示	
		イベントログ表示	
	4	電源制御	
		電源制御	
		仮想アウトレット制御	
		一斉電源制御	
	5	CPUリセット	
第 5 章		その他の設定	58
	1	TELNET 接続による設定	
		MENUによる設定	
		TELNETコマンドによる設定	
	2	ターミナルソフトによる設定	
第 6 章		その他の制御	63
	1	TELNET 接続による制御	
		■制御コマンド一覧表	
		■応答コマンド	
	2	メールからの制御	
	3	WEBコマンドからの制御	
第 7 章		ロギング機能	70
	1	ロギング機能の設定・表示	
		■ログ制御変数のビット構成	
		■ログ表示コマンド	
		■ログの表示形式	
		■記録ログ一覧表	
第 8 章		PPPoE の使用	74
	1	PPPoE について	
	2	設定について	
	3	制御について	
	4	動作について	
第 9 章		SNMP の使用	79
	1	SNMP について	
	2	機器設定	
	3	MIB について	

第 10章	ネットワーク稼働監視	83
1	機器設定		
2	RPC-EYE v 3 の利用		
第 11章	仕様一覧	86
	■変数一覧表		
	■ログ変数一覧表		
	■制御コマンド一覧表		
	■仕様一覧表		
	問い合わせ先		

第 1 章
はじめに

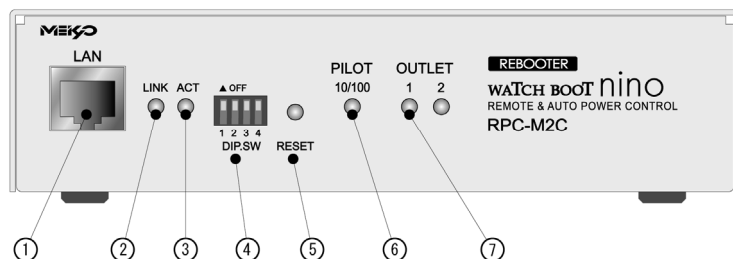
1. 機能概要

本装置には以下の機能があります。

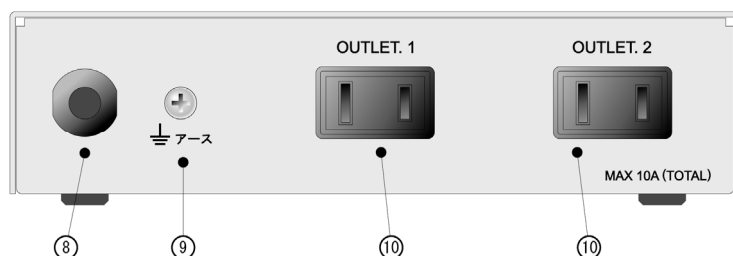
- 1) 2 個の 100V A C 電源を個別に制御/管理
- 2) 通信による電源制御
 - ・ WEB ブラウザからの電源制御
 - ・ TELNET からの電源制御
 - ・ 専用暗号通信ソフト（制御ユーティリティ）からの電源制御
 - ・ PPPoE クライアントとしての接続
- 3) スケジュールによる制御
 - ・ 週間スケジュールによる電源制御
- 4) 監視機能
 - ・ 電源状態の監視
 - ・ ICMP による死活監視
- 5) 各デバイスへの遅延電源投入
 - ・ 本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動
- 6) メールによる制御や通知
- 7) センター通知機能
 - ・ 電源状態と死活監視状態をセンターへ通知
 - ・ RPC -EYE v3 対応
- 8) SNMP エージェント機能
- 9) 通信による遠隔バージョンアップ
- 10) 通信中継機能（制御ユーティリティ通信、TELNET 通信）
 - ・ TELNET クライアントとして通信
- 11) MAGICPACKET による起動

2. 各部の名称と機能

フロントパネル



リヤパネル



① LAN	LAN ケーブル（8ピン RJ45）を接続します。
② LED（LINK）	CPU 状態を表示します。
③ LED（ACT）	通信状態を表示します。
④ DIP スイッチ	運用や初期化など各種モードの切替に使用します。
⑤ RESET スイッチ	出力電源に影響を与えずに CPU を初期化します。
⑥ PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
⑦ OUTLET LED	AC アウトレットの電源出力状態を表示します。
⑧ 電源コード	商用電源、UPS などに接続します。
⑨ アース端子	アース線を接続します。
⑩ AC アウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

注意 故障や漏電の時の感電防止になりますので、アース線を取り付けることをお勧めします。

3. DIPスイッチの設定

DIPスイッチの機能 (OFFは「上」、ONは「下」を意味します。)

NO.	状態	モード
1	OFF	運転モード
	ON	初期化
2	OFF	OFFに固定
	ON	未使用
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード、初期化
4	OFF	OFFに固定
	ON	未使用

DIPスイッチの設定

		1	2	3	4
通常運転時	OFF	■	■	■	■
	ON				
初期設定時	OFF	■	■		■
	ON			■	
初期化時	OFF		■		■
	ON	■		■	

注意

DIPスイッチを操作するときは、本体のACアウトレットから全デバイスを取り外してください。

DIPスイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面のRESETスイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

初期設定は、第3章「初期設定」、「初期化の方法」を参照にして設定してください。

4. LED 表示について

本体には3種類のLEDが装備されています。

1) LINK、ACT LED

CPUの通信状態を表示します。

LED	用途	状態	表示
LINK	CPU 状態	ケーブル抜け PPPoE 接続、通常状態 PPPoE 接続、障害または復旧中 LAN 正常リンク	0.25 秒点灯、0.25 秒消灯 2 秒点灯、0.5 秒消灯 0.5 秒点灯、0.5 秒消灯 1 秒点灯、1 秒消灯
ACT	通信状態	パケット受信時 パケット未受信時	点灯 消灯

2) PILOT LED

本体に電源投入されている場合、オレンジが点灯します。

本体に電源投入され、100BASE-TX リンク時にはグリーンが点灯します。

全アウトレットの死活監視リポート回数の合計が設定値を越えたら赤が点灯にします。

(初期値は 12 回)

POP サーバへのアクセスエラー時は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯します。

3) OUTLET LED

① ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ONの場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

② OFF 遅延中、1 秒点滅

③ 死活監視

1. 死活監視の動作が「リポート」または「ログのみ」の場合

(ア) 死活監視異常中 (出力 ON) は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯

(イ) 死活監視スタート後、全ての PING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒点灯→0.25 秒消灯を繰り返し、その後点灯します。(出力は ON)

2. 死活監視の動作が「ON」の場合

(ア) 死活監視異常中 (出力 ON) は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯

(イ) 死活監視スタート後、全ての PING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒消灯→0.25 秒点灯を繰り返し、その後消灯します。(出力は OFF)

3. 死活監視の動作が「OFF」の場合

(ア) 死活監視スタート後、全ての PING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒点灯→0.25 秒消灯を繰り返し、その後点灯します。(出力は ON)

「ON」「OFF」の設定はブラウザや制御 U T Y からは行えません。変数 [debOIdogAction] を直接変更する必要があります。

第 2 章 設置・取り付け

1. 設置・取り付け

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。設置場所は、単相 100V A C / 10A 以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグが、差し込める位置であることを確認します。
- 2) 本体前面のLAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意 本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取り付け

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1) ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。
- 2) ラック・キャビネットに本装置を設置します。
- 3) 本体前面LAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 4) 電源コードをコンセントに接続します。

3. 固定方法

本装置固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴（4箇所）を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、M 3×8 L（MAX）をご利用ください。

注意 壁面に取り付ける場合は、オプションの取付金具ATTO2が便利です。
オプション：取付金具（ATTO2）標準価格 3,150円（税込）
故障や漏電の時の感電防止になりますので、アース線を取り付けることをお勧めします。

第 3 章 初期設定

1. 初期設定

1-1 RPCサーチソフトを利用する場合

当社ホームページ（<http://www.meikyo.co.jp>）よりRPCサーチソフトをダウンロードし、ご利用して頂ければDHCP機能を利用した本装置を検索し接続することができます。

設定用PCと本装置とは、DHCPサーバの存在するLANに接続します。

- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリックします。

RPCサーチソフト起動画面



- 2) 検索した機器を選択し、「HTML接続」ボタンをクリックするとWebブラウザが起動しログイン画面が表示されます。

RPCサーチソフト機器検索画面



1-2 IPアドレスを固定にして利用する場合

RPCサーチソフトで検索できない場合や、外部のネットワークから接続するため固定のIPアドレスを設定する場合、DHCP機能を無効にして「IPアドレス」を設定します。

設定用PCと本装置とは、LAN用コネクタにLANケーブルで接続します。

- 1) LANやVPN上に192.168.10.1および2のIPアドレスを持つホストがないことを確認します。
- 2) 設定用PCのIPアドレスとネットマスクを以下の通り設定します。Win9xの場合は設定変更後、再起動が必要です。
IPアドレス : 192.168.10.2
ネットマスク : 255.255.255.0
- 3) 本体前面のDIPスイッチ3をONにします。
(メンテナンスモードになり、IPアドレスが192.168.10.1となります。)
- 4) 本体前面のRESETスイッチを押します。
- 5) 設定用PCのWebブラウザを起動します。
http://192.168.10.1を指定し、本装置にアクセスします。

注意 ブラウザはJavaScriptとフレームに対応している必要があります。

- 6) Management menu画面が表示されます。



- 7) 「DHCP機能」を無効にチェックし「適用」をクリックします。その後、IPアドレス欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。

- 8) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。
- 9) 本体前面の DIP スイッチ 3 を OFF にします。
- 10) 本体前面の RESET スイッチを押します。
- 11) Web ブラウザを閉じます。
- 12) 設定用 PC の IP アドレスを元に戻します。
Win9x の場合は設定変更後、再起動が必要です。

<p>注意 設定後は、必ず「適用」をクリックし、「RESET スイッチ」を押してください。「RESET スイッチ」を押さないと設定が反映されません。</p>
--

2. 初期化の方法

本装置を初期化して出荷状態に設定します。

(まだ電源コードをコンセントに接続しないでください。)

- 1) 本体前面のDIPスイッチ1と3をONにします。
- 2) 電源コードをコンセントに接続し、電源を供給します。
- 3) 本体前面のLED(LINK)が5秒間点灯します。点灯中に本体前面のRESETスイッチを押します。
- 4) 初期化が成功するとLED(LINK)とLED(ACK)が同時点灯します。
- 5) LED(LINK)が消灯した場合は一旦電源コードを抜き、電源を供給からやり直してください。
- 6) 初期化後は、DIPスイッチを全てOFFにし、再度電源を供給してからご使用ください。
- 7) 以上で初期化が終わりましたので、前項目の「初期設定」から実行してください。

注意 初期化中には本体の電源を切らないで下さい。

第 4 章

Webブラウザ での設定、制御

1. ログイン

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。(PROXY 経由ではご利用になりません)

注意 ブラウザは JavaScript とフレームに対応している必要があります。半角記号“?”、“=”、“%”、“&”、“,(カンマ)”、“(ダブルクォーテーション)”は入力しないで下さい。

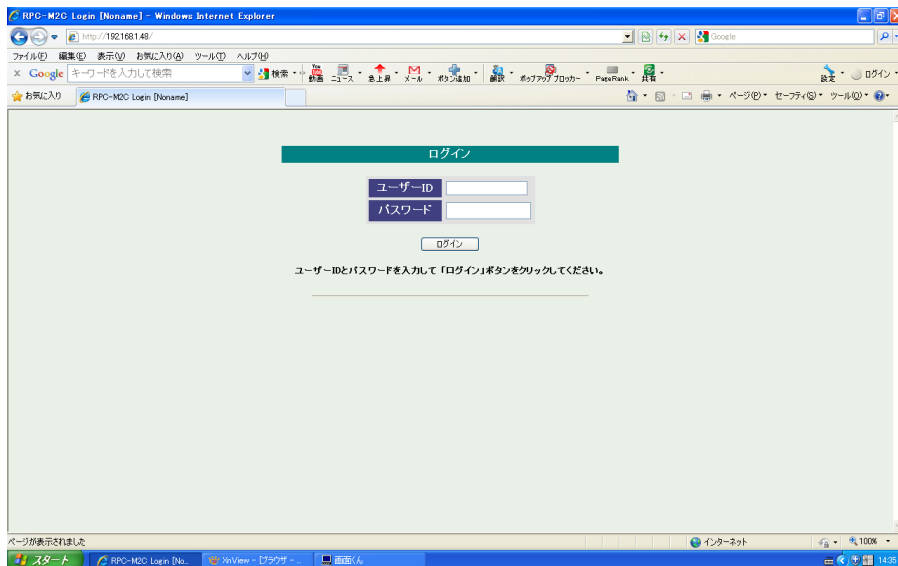
- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリック検索した機器を選択し、「HTML 接続」ボタンをクリックする。またはWebブラウザを起動し、本装置に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

(例 IPアドレス : 192.168.10.1)

HTTPポート番号「80」デフォルトの場合
http://192.168.10.1

HTTPポート番号「500」に設定した場合
http://192.168.10.1:500

ログイン画面

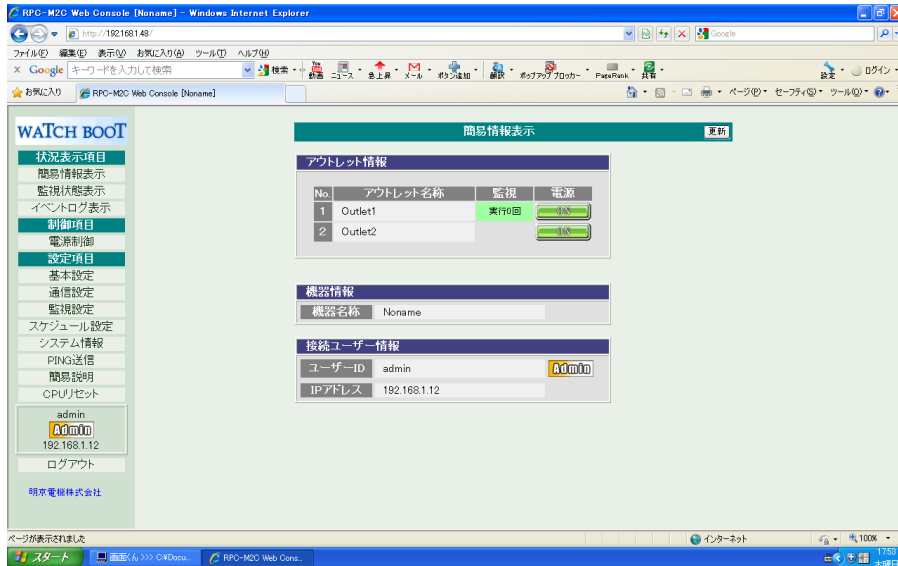


2) ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

ユーザー名 : admin (デフォルト)
パスワード : magic (デフォルト)

3) 簡易情報表示画面が表示されます。

簡易情報表示画面



注意 簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

2. 設定項目

2-1 基本設定

2-1-1 基本設定

本装置および接続されたデバイスの名称を設定します。

- 1) 画面左側設定項目の「基本設定」をクリックします。基本設定画面が表示されます。

基本設定画面

The screenshot shows the '基本設定' (Basic Settings) interface. At the top, there are three tabs: '基本設定' (selected), '詳細設定' (Advanced Settings), and 'セキュリティ設定' (Security Settings). Below the tabs, there are three main sections:

- 時間設定 (Time Settings):** Includes a 'PCによる時刻設定' (Set time by PC) button and a '時刻設定' (Set time) button.
- 機器設定 (Device Settings):** Contains fields for '機器名称' (Device Name) set to 'Noname' and '設置場所' (Installation Location) set to 'Nowhere'. Below this is a table for outlet settings:

No.	アウトレット名称	OFF遅延	再投入	ON遅延
1	Outlet1	0 秒	10 秒	1 秒
2	Outlet2	0 秒	10 秒	2 秒

Below the table, there is a '全アウトレット再投入' (Reset all outlets) button set to '10 秒'. There are also two notes: '※OFF遅延を「-1」にするとOFF操作を使用不可にします。' and '※ON遅延を「-1」にすると自動で電源出力を開始しません。'. At the bottom of this section, there is a radio button for 'LEDによる状態表示機能' (Status display by LED), with '無効' (Disabled) selected and '有効' (Enabled) unselected.

- Wake On LAN設定 (Wake On LAN Settings):** Includes a table for MAC addresses:

	MACアドレス
アウトレット1	
アウトレット2	

Below the table, there are fields for 'パケット送信回数' (Packet transmission count) set to '2' and 'パケット送信間隔(秒)' (Packet transmission interval) set to '15'. A blue link '送信テスト画面へ' (Go to transmission test screen) is present. A note at the bottom states: '※対象アウトレットがOFFからON動作時に送信されます。' (The target outlet is transmitted when it starts operation from OFF to ON). At the very bottom, there are '適用' (Apply) and 'リセット' (Reset) buttons.

時間設定

PCによる時刻設定 : 「時刻設定」をクリックすると接続されたPCの時刻に設定されます。

機器設定

機器名称 : 機器名称を設定します。

設置場所 : 設置場所を設定します。

全角 9 文字、半角英数字 19 文字以内

① アウトレット名称 : 個別アウトレットの名称を設定します。

全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内

② OFF 遅延

個別アウトレットの電源出力を停止する際の OFF 遅延時間を設定します。「-1」設定は、電源 OFF 操作を禁止にし、リポート操作のみ有効としますのでルーターやハブなど誤操作による電源 OFF を避けたい通信機器を接続し電源を制御する場合に便利です。(電源切断により、ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。) この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・個別アウトレット制御の OFF 操作

・全アウトレット制御の OFF 操作

デフォルト : 0

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「-1」 : アウトレット制御の OFF 操作を使用不可にします。リポート操作のみ可能です。

「0」 : 即座に電源出力を停止します。

「1~3600」 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を停止します。

③ 再投入

個別アウトレットの電源出力を停止してから開始するまでの時間を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリポート時間を確保できます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・個別アウトレット制御のリポート操作

デフォルト : 10

設定可能値 : 8 ~ 3600 (秒)

④ ON 遅延

個別アウトレットの電源出力を開始するまでの時間を設定します。この設定により、指定した順番に、指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・本体電源投入時
- ・全アウトレット制御のON操作
- ・全アウトレット制御のリブート操作

デフォルト : No.1-1 No.2-2

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「 -1 」 : 自動で電源出力を開始しません。

「 0 」 : 即座に電源出力を開始します。

「 1~3600 」 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を開始します。

⑤ 全アウトレット再投入時間

全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

注) 個別アウトレットの再投入時間は反映されません。

- ・全アウトレット制御のリブート操作

デフォルト : 10

設定可能値 : 8~3600 (秒)

⑥ LEDによる状態表示機能

有効: 「簡易説明」の内容通りに、各LEDの状態表示が動作します。

無効: P I L O T, O U T O L E T LEDの点滅動作はなくなり、点灯または消灯となります。

デフォルト : 有効

WakeOnLAN 設定

アウトレット 1~4 デフォルト : 00:00:00:00:00:00
MAC アドレス
パケット送信回数 デフォルト : 2 (回)

パケット送信間隔 (秒) デフォルト : 15

- * パケット送信回数は仮想アウトレットと共用です。
- * パケット送信間隔は仮想アウトレットと共用です。
- * アウトレットが ON した時、マジックパケットを送出します。

WakeOnLAN 機能について

WakeOnLAN 対応の機器を電源出力開始と同時に MAGIC PACKET を送信し、ブートアップさせることができます。

- 2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。
- 3) 「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させ WakeOnLAN 送信テストの各アウトレットの「送信」をクリックすると設定されている「MAC アドレス」に MAGIC PACKET を送信します。

送信テスト画面

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-1-2 仮想アウトレット設定

本装置の仮想アウトレットに関するを設定します。

仮想アウトレット

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされた MAC アドレスへマジックパケットを送出して、WakeOnLAN 機能を実現させるためのものです。

- 1) 基本設定項目の「詳細設定」をクリックします。仮想アウトレット設定画面が表示されます。

仮想アウトレット設定画面

No.	仮想アウトレット名称	MACアドレス	ON遅延
1			0 秒
2			0 秒
3			0 秒
4			0 秒
5			0 秒
6			0 秒
7			0 秒
8			0 秒

パケット送信回数: 2 回
パケット送信間隔: 15 秒

適用 リセット

仮想アウトレット設定

仮想アウトレット名称 : 仮想アウトレット名称を設定します。
全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内

MACアドレス デフォルト : 00:00:00:00:00:00

ON遅延 (秒) デフォルト : 0

パケット送信回数 (回) デフォルト : 2

パケット送信間隔 (秒) デフォルト : 15

- 2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-1-3 セキュリティ設定

本装置にセキュリティに関する設定をします。

2-1-3-1 ユーザーアカウント設定

- 1) 「セキュリティ設定」をクリックします。ユーザーアカウント設定画面が表示されます。

ユーザーアカウント設定画面

セキュリティ設定

ユーザーアカウント設定 セキュリティ詳細設定 基本設定に戻る

※ 入力項目は半角英数のみ有効

Ident (システム情報の参照のみ)

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

Control (システム情報参照と電源の制御のみ)

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

Admin

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1	admin	●●●●	4		
2			5		
3					

適用 リセット

Ident : 簡易情報表示と監視状態表示のみ (※ 最大 10 件登録)

Control : 簡易情報表示と監視状態表示及び電源の制御のみ (※ 最大 10 件登録)

Admin : 全ての権限 (※ 最大 5 件登録)

ユーザーID : 最大半角 8 文字 (重複不可) (@は不可)

パスワード : 最大半角 16 文字 (重複可)

- 2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 TELNET 用のパスワードは別途変更する必要があります。

2-1-3-2 セキュリティ詳細設定

1) 「セキュリティ設定」の「セキュリティ詳細設定」をクリックします。セキュリティ詳細設定画面が表示されます。

セキュリティ詳細設定画面

IPフィルター設定	
IPフィルター機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
アドレス1	<input type="text"/>
アドレス2	<input type="text"/>
アドレス3	<input type="text"/>
アドレス4	<input type="text"/>
アドレス5	<input type="text"/>
アドレス6	<input type="text"/>
アドレス7	<input type="text"/>
アドレス8	<input type="text"/>
アドレス9	<input type="text"/>
アドレス10	<input type="text"/>

制御ユーティリティ用設定	
暗号化キーファイル	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

適用 リセット

IPフィルター設定

IPフィルター機能	:	有効	無効
アドレス	デフォルト	:	0.0.0.0 (最大 10 アドレス)

2) キーファイルを有効にチェックするとキーファイルを使い暗号化通信が有効になります。

キーファイル（制御ユーティリティ用）

セキュリティのために、キーファイルが使われます。制御ユーティリティで本装置に初めてアクセスすると、自動的に固有のキーコードが生成され、本装置に設定されると共に、PCの制御ユーティリティと同じフォルダ内にキーファイルが作られます。ファイル名は、KEYFILE.KYFです。これ以後は、このファイルが無いとアクセスできません。他のPCで制御ユーティリティを使う場合は、このファイルもコピーする必要があります。キーファイル有効は、変数[keyCheck=1]です、TELNETで変数を変更して[keyCheck=0]にすると無効にできます。また、変数「keyCode=""」としますと、本装置内部のキーファイルをクリアしてデフォルトに戻すことができます。（デフォルト：キーファイル無効）

3) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 「適用」をクリックしないと設定した内容が有効になりません。TELNETの有効・無効は、「CPUリセット」をクリックしないと反映されません。なお、「CPUリセット」をクリックすると通信が切断されます。制御ユーティリティは当社ホームページ (<http://www.meikyo.co.jp>) よりダウンロードし、インストールされてご利用ください。

2-2 通信設定

本装置のネットワークに関する設定をします。

2-2-1 通信基本設定

1) 「通信基本設定」をクリックします。通信基本設定画面が表示されます。

通信基本設定画面

ネットワーク設定	
IPアドレス	192.168.1.48
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNSサーバーアドレス	192.168.1.1
DHCP機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
NTPサーバー	
NTP更新間隔	6 (1=10分)
HTTP機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTPポート	80
TELNET機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
TELNETポート	23
TELNET中継先 IP	
TELNET中継先 ポート	23
リンク速度とDuplex	自動検知

※ネットワーク設定はCPUリセット後に有効になります。

関連項目	
無通信タイマー(秒)	600
WEB自動更新機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
WEB自動更新間隔(秒)	30
ダイレクトWEBコマンド制御	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

PPPoE設定	
ISP名称	
PPPoE接続方法	<input type="radio"/> 常時 <input checked="" type="radio"/> コマンド
PPPoEユーザー名	
PPPoEパスワード	

適用 リセット

ネットワーク設定

IPアドレス	デフォルト	: 192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	: 0.0.0.0
DNSサーバアドレス	デフォルト	: 0.0.0.0
DHCP機能		: 有効 無効
NTPサーバ	デフォルト	: 0.0.0.0
NTP更新間隔	デフォルト	: 6 (×10分)
HTTP機能		: 有効 無効
HTTPポート	デフォルト	: 80
TELNET機能		: 有効 無効
TELNETポート	デフォルト	: 23
TELNET中継先IP	デフォルト	: 0.0.0.0
TELNET中継先ポート	デフォルト	: 23
リンク速度とDuplex	デフォルト	: 自動検知

関連項目

無通信タイマー	: 無通信の時間を設定します。
WEB自動更新機能	: 有効、無効を設定します。
WEB自動更新間隔	: WEB自動更新間隔の時間を設定します。
ダイレクトWEBコマンド制御	: 有効、無効を設定します。

PPPoE設定

ISP名称	: ISP名称を入力します。 全角31文字、半角英数字63文字以内
接続方法	: コマンド接続か常時接続かを選択します。
ユーザーID	: 指定されたユーザーIDを入力します。
パスワード	: 指定されたパスワードを入力します。

* PPPSTA や LOG コマンドで接続を確認できます。「PPPoEの使用照

外部のネットワークから接続するため、IPアドレスを固定にしてルーターのポートフォワーディング機能を利用する場合は、DHCPを無効にします。

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意	DHCP 利用中、IP アドレスの取り直しが行われると本装置は自動的に CPURESET を行います。その際、ログや監視記録も消去されます。従いまして、ルーターなど DHCP サーバとして機能している機器をリブートした場合、本装置に CPURESET が生じる可能性があります。
-----------	---

2-2-2 通信詳細設定

SNMPに関する設定をします。

1) 「通信詳細設定」をクリックします。通信詳細設定画面が表示されます。

通信詳細設定画面

The screenshot displays the '通信詳細設定' (SNMP Configuration) screen. It features three main sections: 'SNMP基本設定' (SNMP Basic Settings), 'SNMPフィルター設定' (SNMP Filter Settings), and '状態通知機能' (Status Notification Function). Each section contains various configuration options, including community names, trap destinations, filter rules, and notification parameters. The interface includes tabs for '通信基本設定', '通信詳細設定', and 'メール設定'. A note at the top indicates that input fields accept only half-width alphanumeric characters.

通信詳細設定

通信基本設定 | 通信詳細設定 | メール設定

※ 入力項目は半角英数のみ有効

SNMP基本設定

SET GET設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
GETコミュニティ名	public
SETコミュニティ名	public
TRAPコミュニティ名	public
マネージャーTrap	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Authen Trap	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
トラップIPアドレス1	
トラップIPアドレス2	
トラップIPアドレス3	
トラップIPアドレス4	
トラップIPアドレス5	
トラップIPアドレス6	
トラップIPアドレス7	
トラップIPアドレス8	

※ネットワーク設定はCPUリセット後に有効になります。

SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能 有効 無効

	フィルターIPアドレス	フィルターマスク
1		255.255.255.255
2		255.255.255.255
3		255.255.255.255
4		255.255.255.255
5		255.255.255.255
6		255.255.255.255
7		255.255.255.255
8		255.255.255.255
9		255.255.255.255
10		255.255.255.255

状態通知機能

状態通知機能 有効 無効

1	通知先センターアドレス	192.168.1.11
	通知先センターポート	5000
2	通知先センターアドレス	
	通知先センターポート	5000
3	通知先センターアドレス	
	通知先センターポート	5000
送信間隔(秒)		300

一斉電源制御受付

機能有効とグループ指定

制御側MACアドレス制限

適用 | リセット

SNMP基本設定

SETGET 設定		:	有効 無効
GET コミュニティ名	デフォルト	:	public
SET コミュニティ名	デフォルト	:	public
TRAP コミュニティ名	デフォルト	:	public
マネージャートラップ		:	有効 無効
AuthenTrap		:	有効 無効
トラップIPアドレス	デフォルト	:	255.255.255.255 (最大 8 IP アドレス)

SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能		:	有効 無効
フィルターIPアドレス	デフォルト	:	0.0.0.0
フィルターマスク	デフォルト	:	255.255.255.255 (最大 10 アドレス)

状態通知機能

状態通知機能		:	有効 無効
通知先センターアドレス 1	デフォルト	:	0.0.0.0
通知先センターポート 1	デフォルト	:	5000
通知先センターアドレス 2	デフォルト	:	0.0.0.0
通知先センターポート 2	デフォルト	:	5000
通知先センターアドレス 3	デフォルト	:	0.0.0.0
通知先センターポート 3	デフォルト	:	5000
送信間隔 (秒)	デフォルト	:	300

一斉電源制御受付

機能有効とグループ指定		:	有効 1~8 グループ
制御側MACアドレス制御		:	

一斉電源制御

一斉電源制御とは、複数の本装置を最大 8 グループに分けることが出来、各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することが出来ます。

制御側MACアドレス制御を設定すると、設定した機器のみ、電源を制御することが出来ます。

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

<p>注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。</p>

2-2-3 メール設定

監視機能で異常時および復旧時にメールを送信するアドレスを設定します。

1) 「メール設定」をクリックします。

メール設定画面

メール設定

通信基本設定 通信詳細設定 **メール設定**

※ 入力項目は半角英数のみ有効

メールサーバ設定

ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
メールアドレス	<input type="text"/>
POP3サーバ名	<input type="text"/>
SMTPサーバ名	<input type="text"/>
自動ログアウト時間(分)	<input type="text" value="10"/>
メールチェック間隔(分)	<input type="text" value="3"/>
タイムアウト時間(秒)	<input type="text" value="10"/>
POP3ポート	<input type="text" value="110"/>
SMTPポート	<input type="text" value="25"/>
SMTP認証 (CRAM-MD5)	<input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
パスワード暗号化 (APOP)	<input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

メール制御コマンド有効

メール制御パスワード

メール制御許可アドレス

送信メール 件名	<input type="text" value="機器名称"/>
送信メール 本文1行目	<input type="text" value="設置場所"/>
送信メール 本文2行目	<input type="text" value="機器IPアドレス"/>
送信メール 本文3行目	<input type="text" value="MACアドレス"/>
送信メール 本文4行目	<input type="text" value="イベント内容"/>

通知先設定

No.	通知先アドレス	死活	PPP oE
アドレス1	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス2	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス3	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス4	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス5	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス6	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス7	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス8	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ログ送信カウント

[送信テスト画面へ](#)

エラーメッセージ情報

クリア

- 2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。
- 3) 「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させテストメール送信の「送信」をクリックすると設定されている通知先アドレスにテストメールを送信します。

送信テスト画面

送信テスト

Wake On LAN 送信テスト

アウトレット1 送信

アウトレット2 送信

メール送信テスト

テストメール送信 送信

[エラーメッセージ確認](#)

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

メール送信のみの利用で POP 認証を行わない場合でも、ユーザー名、パスワードは必要です。ダミーデータを設定してください。

設定したメールアドレスのメールサーバ内のメールは、メールチェック間隔でメールサーバ内のメールをチェックした後、削除されます。

2-3 監視設定

本装置の監視に関する設定をします。

2-3-1 P I N G 監視

1) 「監視設定」をクリックします、P I N G 監視設定画面が表示されます。

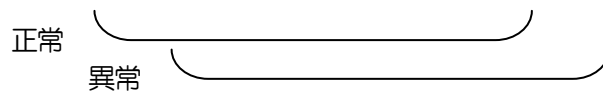
P I N G 監視の仕組みと動作

アウトレット毎に、本装置に接続されたデバイスのP I N G 監視機能の設定をします。監視先アドレスに対して I C M P を送信します。各監視先に対して、[PING 送信間隔] で設定した間隔で I C M P を 1 個送出し、設定した[送信]回数内で設定した[無答]回数、無応答であるとその監視先を異常と判断します。異常と判断された監視先が「対象」数に達すると、そのアウトレットを異常と判定し、設定した[動作]を実行します。

[動作] がリブートの場合、[動作] 後も、無応答が続く場合は 1 時間ごとに [動作] を繰り返します。また、応答を確認して判定が「正常」または「回復中」になった場合は、再度、条件がそろると [動作] を行います。「詳細設定」にチェックし、「適用」ボタンをクリックすると各アウトレット毎に、最大 4 つの監視先アドレスに対して、I C M P を送信することができます。

判定例) 送信回数:5 無答回数:3 の場合

応答 有 → 無 → 有 → 無 → 有 → 無 → 動作



P I N G監視設定画面

監視設定

PING監視

POPサーバー監視

詳細設定 ※ 入力項目は半角英数のみ有効

監視先	DG	送信	無答	
1	<input type="checkbox"/>	3	3	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">192.168.1.65</div> <div style="margin-top: 5px;"> <input type="button" value="動作"/> </div> <div style="margin-top: 5px;"> <input type="button" value="ログのみ"/> </div>
▲ アウトレット番号				
2	<input type="checkbox"/>	10	10	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;"> </div> <div style="margin-top: 5px;"> <input type="button" value="動作"/> </div> <div style="margin-top: 5px;"> <input type="button" value="無動作"/> </div>
▲ アウトレット番号				

PING 送信間隔 (分)	1
死活監視レポートによる警告 (回)	12

※PILOT LEDを赤点灯させる全アウトレットの死活監視レポート回数

- ・(監視先)に対してICMPを(PING 送信間隔)分毎に1個送信します。
- (送信)回数内に(無答)回数回、応答が無いと異常と判断し(動作)を実行します。
- ・DGをチェックする事により、Default Gateway(ルータ等)を監視対象にします。
- ・アウトレット電源OFFの場合はPING監視は行いません。
- ・レポート復旧しない場合1時間毎に動作を繰り返します。

- ① 監視先： 監視するIPアドレス又はドメイン名を設定します。
各アウトレットに最大4ヶ所設定できます。(詳細設定のみ)
例 IPアドレス : 192.168.0.1
例 ドメイン名 : www.meikyo.co.jp
- ② DG： チェックでデフォルトゲートウェイを監視先に指定します。
- ③ 送信： 判断するための送信する回数を設定します。
1～100の整数
- ④ 無答： 送信回数内で異常と判断するICMPへの無応答回数を設定します
1～100の整数
- ⑤ 対象： 動作を実行させるための異常な監視先アドレスの数を設定します。
1～4(詳細設定のみ)
- ⑥ 動作： 動作を選択します。
無動作 : P I N G監視を行いません。
レポート : ログに記録し、電源出力をOFF/ONします。
ログのみ : ログに記録します。電源は制御しません。
- ⑦ PING 送信間隔 (分)： I C M Pの送信間隔を設定します。
1～60の整数
- ⑧ 死活監視レポートによる警告 (回)： デフォルト 15回
P I L O T L E Dを点灯させる全アウトレットの死活監視レポート回数

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

監視設定が有効なアウトレットはアウトレット番号の背景色が「青色」に変わります。また、PING監視が正常な場合は監視番号の背景色が「青色」に変わり、異常が発生している場合は「赤色」、回復中は「黄色」に変わります。

<p>注意 応答のない状態が続いた場合は、約 1 時間毎に設定された動作を実行します。再度、条件が成立しても動作は 1 時間に 1 度しか実行しません。</p>

2-3-2 POPサーバ監視

- 1) 「POPサーバ監視」をクリックします、POPサーバ監視設定画面が表示されます。

POPサーバ監視設定画面

監視設定

PING監視 POPサーバ監視

⚠ POP3サーバが設定されていません。

POPサーバ監視

1 接続障害回数 0 回 動作 ※動作はPING監視と共通 ログのみ ▼ ▲ アウトレット番号

POPサーバ監視

2 接続障害回数 0 回 動作 ※動作はPING監視と共通 無動作 ▼ ▲ アウトレット番号

現在のPOPサーバ設定	
POPサーバ接続障害回数	0
メールチェック間隔(分)	3

適用 リセット

POPサーバ監視

- 接続障害回数 : POPサーバを異常と判断回数を設定します。
- 動作 : 無動作 : 監視を行いません。
リポート : ログに記録し、電源出力をOFF/ONします。
ログのみ : ログに記録します。電源は制御しません。
動作はPING監視と共通の設定になります。

現在のPOPサーバ設定

- POPサーバ接続障害回数 : POPサーバ接続障害回数を表示します。
- メールチェック間隔(分) : POPサーバのチェック間隔
デフォルト 3分

- 2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 POPサーバ監視を行う場合はPOP3サーバの設定が必要になります。
メール設定で設定してください。

2-4 スケジュール設定

本装置のスケジュールに関する設定をします。最大20件登録できます。

1) 「スケジュール設定」をクリックします。

スケジュール設定画面

スケジュール設定

 NTPサーバーへの接続に失敗しています。
時刻が未設定または不正確な場合があります。

スケジュールリスト

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
5	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
6	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
7	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
8	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
9	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
10	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
11	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
12	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
13	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
14	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
15	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
16	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
17	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
18	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
19	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
20	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作

注意！ 仮想アウトレットの場合、「電源OFF」「リポート」では動作しません。「電源ONJ」のみ動作します。

- ① 有効 : 設定したタイマの有効/無効
チェックした No.が有効になります。

- ② アウトレット : 制御するアウトレット No.
全アウトレット、アウトレット1~4
全仮想アウトレット、仮想アウトレット1~8

- ③ 曜日 : 実行する曜日（毎日または指定曜日）
毎日 日曜 月曜 火曜 水曜
木曜 金曜 土曜

- ④ 時 : 実行する時間
0 ~ 23

- ⑤ 分 : 実行する分
0 ~ 59
- ⑥ 動作 : 実行する動作
無動作 リポート 電源ON 電源OFF
(仮想アウトレットではONのみ有効)

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

<p>注意 スケジュール設定を使う場合はNTP サーバの設定が必要になります。基本設定で設定してください。 NTP サーバの接続に失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。</p>
--

2-5 システム情報

本装置に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

- 1) 「システム情報」をクリックします。

システム情報画面

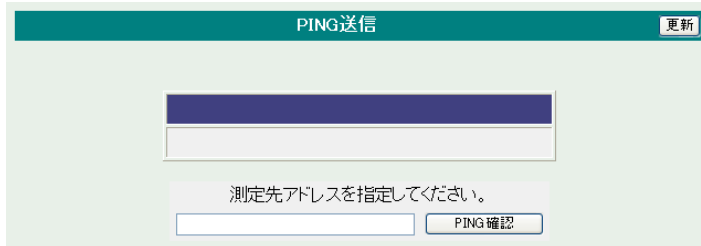
システム情報		更新
システム基本		
機器名称	Noname	
バージョン	1.10A.100921	
モデル名	RPC-M2C	
アウトレット1名称	Outlet1	
アウトレット2名称	Outlet2	
アウトレット3名称		
アウトレット4名称		
機器内部時間		
仮想アウトレット1名称		
仮想アウトレット2名称		
仮想アウトレット3名称		
仮想アウトレット4名称		
仮想アウトレット5名称		
仮想アウトレット6名称		
仮想アウトレット7名称		
仮想アウトレット8名称		
MACアドレス	00:09:EE:00:09:99	
IPアドレス	192.168.1.48	
サブネットマスク	255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1	
NTPサーバーアドレス	(NG)	
HTTP機能	有効	
HTTPポート	80	
TELNET機能	有効	
TELNETポート	23	
LAN接続速度	100.0Mbps	

2-6 P I N G送信

本装置からのP I N G送信の確認できます。

- 1) 「P I N G送信」をクリックします。

P I N G送信画面



- ① 「測定先アドレスを指定してください。」の欄に測定先アドレスを入力し、「P I N G確認」をクリックして下さい。
- ② 測定中は「測定中」の表示がされます。
- ③ 測定結果が表示されます。

正常 : Reply from xxx.xxx.xxx.xxx --- time=yyms
xxx.xxx.xxx.xxx : 測定先アドレス
yy : 応答時間(ミリ秒)

異常 : Request timed out.
応答が異常時

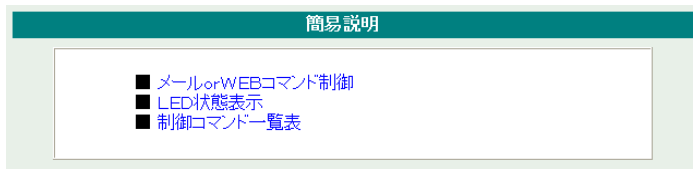
異常 : Domain name not found.
ドメイン名が存在しない

2-7 簡易説明

本装置の簡易説明が確認できます。

1) 「簡易説明」をクリックします。

簡易説明画面



メール orWEBコマンド制御

メールからの制御

ログイン方式

パスワード方式

WEB からダイレクトコマンド制御

WEB コマンドでの制御方法

利用可能コマンド

LED状態表示

OUTLET LED 電源操作時

PILOT LED 状態通知機能

LINK ACT LED LAN 接続関係

制御コマンド一覧表

制御コマンド 内容

3. 状態表示項目

3-1 簡易情報表示

現在の本装置の電源状態を表示します。

- 1) 「簡易情報表示」をクリックします。

簡易状態表示画面

The screenshot shows a web interface titled '簡易情報表示' (Simple Information Display) with a '更新' (Refresh) button in the top right corner. The interface is divided into three sections:

- アウトレット情報** (Outlet Information): A table with columns for No., アウトレット名称 (Outlet Name), 監視 (Monitoring), and 電源 (Power).

No.	アウトレット名称	監視	電源
1	Outlet1	実行0回	ON
2	Outlet2		ON
- 機器情報** (Device Information): A field for 機器名称 (Device Name) with the value 'Noname'.
- 接続ユーザー情報** (Connection User Information): Fields for ユーザーID (User ID) with 'admin' and IPアドレス (IP Address) with '192.168.1.12'. There is also a small 'Admin' icon.

注意 簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

3-2 監視状態表示

現在の本装置の監視状態を表示します。

- 1) 「監視状態表示」をクリックします。

監視状態表示画面

監視状態表示								更新
アウトレット監視状態/判定条件								
No.	電源	死活判定	実行数	送信数	無応答	対象数	動作	
1		正常	70	3	3	1	ログのみ	
2		正常	0	10	10	1	無動作	
▲ アウトレット番号								
監視先状態								
No.	監視先1		監視先2		監視先3		監視先4	
	状態	無応答数	状態	無応答数	状態	無応答数	状態	無応答数
1	正常	0						
2								
▲ アウトレット番号								
PING応答時間								
No.	監視先1	監視先2	監視先3	監視先4				
	応答時間	応答時間	応答時間	応答時間				
1	1 ms							
2								
▲ アウトレット番号								
機器情報								
POPサーバ接続障害回数							0	

アウトレット監視状態/判定条件

- ① 電源 : 電源の状態を表示します。
- ② 死活判定 : PING 監視および POP サーバ監視の判定結果を表示します。
正常: 異常な監視先が対象数未満、かつ POP サーバ正常。
異常: 異常な監視先が対象数以上、あるいは POP サーバ異常。
回復中: 動作後、異常な監視先が対象数未満だが、異常な監視先が残っている。POP サーバは正常。
- ③ 実行数 : PING 監視と POP サーバ監視の実行された動作の回数を表示します。
- ④ 送信数 : PING 監視の PING 送信回数設定値を表示します。
- ⑤ 無応答 : PING 監視の無応答回数設定値を表示します。
- ⑥ 対象数 : PING 監視の対象数設定値を表示します。
- ⑦ 動作 : PING 監視と POP サーバ監視の動作を表示します。

監視先状態

- ① 状態 : アウトレット毎に各監視先の応答状態を表示します。
- ② 無応答数 : ICMP 送信に対する無応答回数を表示します。

P I N G 応答時間

- ① 応答時間 : 監視先の P I N G 応答時間を表示します。

機器情報

- ① P O P サーバー接続障害回数 : P O P サーバーへの接続障害回数を表示します。

3-3 イベントログ表示

現在までのイベントログ表示を表示します。

- 1) 「イベントログ表示」をクリックします。

イベントログ表示画面

No.	日時	内容	情報	接続者
1	5	ログ開始		
2	11	WEBアクセス	192.168.1.11	
3	25	WEBログイン	192.168.1.11	admin
4	628	WEBログアウト	192.168.1.11	
5	20608	WEBアクセス	192.168.1.11	
6	20615	WEBログイン	192.168.1.11	admin
7	21222	WEBログアウト	192.168.1.11	
8	24435	TELNET接続	192.168.1.11	
9	24445	TELNETログイン	192.168.1.11	
10	24454	電源操作(OFF)	アウトレット 1	
11	24465	電源操作(ON)	アウトレット 1	
12	24469	TELNETログインせず切断	192.168.1.11	
13	1826707	UTY接続	192.168.1.11	
14	1826707	UTYログイン	192.168.1.11	admin
15	1826707	UTYログインせず切断	192.168.1.11	admin
16	1826766	WEBアクセス	192.168.1.11	
17	1826766	WEBログイン	192.168.1.11	admin
18	1827387	WEBログアウト	192.168.1.11	

- 2) 「更新」を押すと最新状態に更新します。

- ① 前ページ : 前ページを表示します。
- ② 次ページ : 次ページを表示します。
- ③ 先頭ページ : 先頭ページを表示します。
- ④ 最終ページ : 最終ページを表示します。
- ⑤ 全ログクリア : ログを消去します。

注意 1 ページは 100 項目単位で表示します。最大 10 ページ、1000 項目のログを表示可能です。

4. 電源制御

本装置に接続されたデバイスの電源制御をします。

4-1 電源制御

1) 「電源制御」をクリックします。



①電源状態

現在の電源の状態を表します。

(更新されないと最新の状態が表示されません。)

②個別アウトレット制御の動作

電源ON : 電源出力を開始します。

電源OFF : 電源出力を停止します。

リポート : 電源出力をOFF / ONします。

③ 全アウトレット制御の動作

電源ON : 全アウトレットの電源出力を開始します。

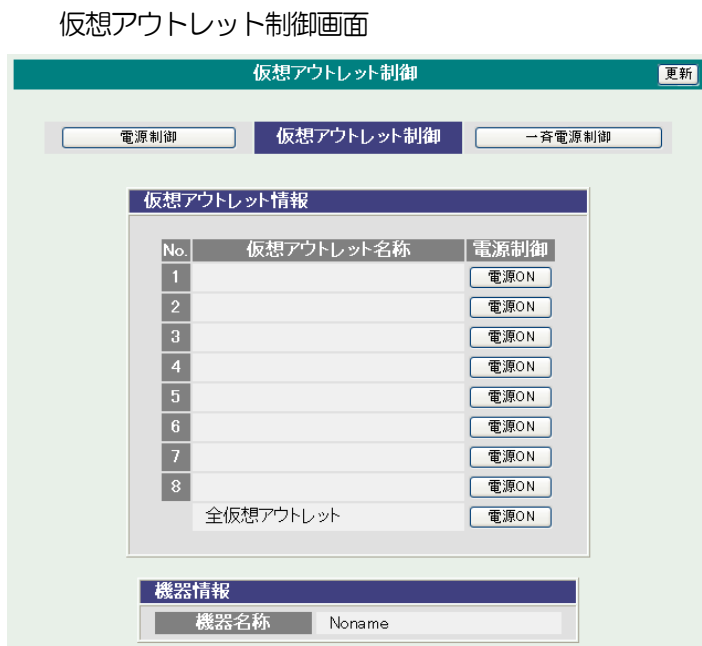
電源OFF : 全アウトレットの電源出力を停止します。

リポート : 全アウトレットの電源出力をOFF / ONします。

④ 「更新」をクリックすると最新の電源状態を取得します。

4-2 仮想アウトレット制御

1) 「仮想アウトレット制御」をクリックします。



仮想アウトレット

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされた MAC アドレスへマジックパケットを送出して、WakeOnLAN 機能を実現させるためのものです。

①個別仮想アウトレット制御の動作

電源 ON : マジックパケットを送出します。

② 全仮想アウトレット制御の動作

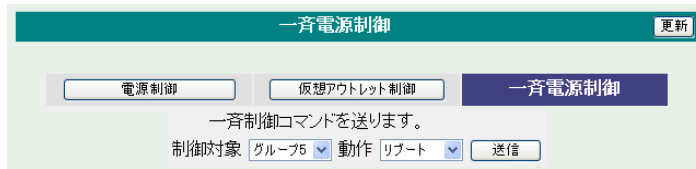
電源 ON : 全仮想アウトレットへマジックパケットを送出します。

注意 「更新」をクリックしないと画面表示とアウトレットが違う場合がありますので電源状態は「更新」をクリックして最新の状態を確認してください。全アウトレット ON の時、個別アウトレットは1秒の間隔でONします。(遅延時間、デフォルト)
リポートのOFF時間は10秒です。(デフォルト)
遅延時間、OFF時間及びOFF禁止などの設定は変数の変更により可能です。

4-3 一斉電源制御

1) 「一斉電源制御」をクリックします。

一斉電源制御画面



一斉電源制御

一斉電源制御とは、複数の本装置を最大8グループ分けて、各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することができます。

制御対象	:	マジックパケットを送出します。
動作	:	実行する動作 電源ON 電源OFF リポート
送信	:	一斉制御コマンドを送信します。

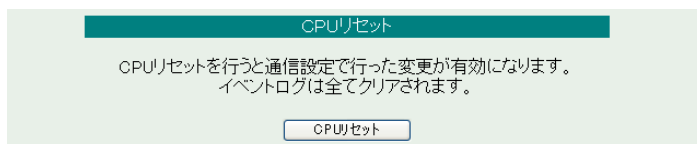
注意 リポートのOFF時間は10秒です。(デフォルト)
遅延時間、OFF時間及びOFF禁止などの設定は変数の変更により可能です。

5. CPU リセット

本装置の設定変更を有効にします。

- 1) 「CPU リセット」をクリックします。

CPU リセット画面



- 2) CPU リセット画面の「CPU リセット」をクリックします。

注意 「CPU リセット」をクリックすると設定した内容が有効になり、イベントログの内容は消去されます。なお、「CPU リセット」ボタンをクリックすると通信が切断されますが、アウトレットの状態は現状のまま保持されます。IP アドレスなど CPU リセットを必要とする変数の値が有効になります。

第 5 章 その他の設定

1. TELNET 接続による設定

- 1) R P Cサーチソフトで検索した機器を選択し、「TELNET接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

デフォルトの場合

IPアドレス : 192.168.10.1
TELNETポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」

※アンダーバーはスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220 R P C - M 2 C (Noname) server ready
```

- 3) 任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。
- 4) パスワードを入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

1-1 MENUによる設定

- 1) 「menu」を入力し、<Enter>キーで実行するとMENU「トップメニュー」画面が表示されます。

+-----+ トップメニュー +-----+
1) 簡易情報表示
2) 監視状態表示
3) 電源制御
4) 基本設定
5) セキュリティ設定
6) 通信設定
7) 監視設定
8) スケジュール設定
9) メール設定
10) システム情報
S) 設定保存
X) メニュー終了

- 2) 設定する「項目」の番号を入力します。
- 3) 設定が終了しましたら、[s]を入力し設定を保存します。
- 4) 全ての設定が終了しましたら、[x]を入力しメニューを終了します。

1-2 TELNETコマンドによる設定

- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリック検索した機器を選択し、「TELNET接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを指定し、本装置にアクセスします。
- 2) 設定します。コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
(IPアドレスなど一部の設定はCPUリセット後に反映されます。)

■TELNET 通信の設定関係コマンド

コマンド	内 容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定を FROM に書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。
変数名=値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPU をリセットします。(電源状態は変化しません。)
MENU	メニュー画面に切り替わります。

※変数については「**■変数一覧表**」参照

■「&SAVE」コマンドについて

環境(変数全体)を一括して待避・復元するためのコマンドです。

「&SAVE」を実行すると、最初に「LOAD_BEGIN」、それに続いて一連の変数設定コマンド、最後に「LOAD_END」をテキストデータとして出力します。このテキストデータを設定データとして保存し、のちに送信しますと、保存した設定になります。TELNET用のパスワードなど、いくつかの変数は保存されませんのでご注意ください。設定データをテキストエディタで変更して利用することもできます。なお、「&SAVE」には、エコーバックがありません。変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。長いコマンドは分割されます。(最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。) ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を 0 または 1 とします。

■プロンプトやコマンドについて

TELNET からアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。制御ユーティリティでは、常に「>」のプロンプトが表示されます。また、「?」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を0または1とします。

変数名	:	promptMode
値	:	0 (プロンプト表示無し)
	:	1 (「>」のプロンプト表示)
	:	2 (「 機器名 > 」のプロンプト表示)

第 6 章 その他の制御

1. TELNET 接続による制御

本装置は TELNET サーバプログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。

1-1 TELNET 接続による制御

- 1) RPCサーチソフトで検索した機器を選択し、「TELNET接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

デフォルトの場合

IPアドレス : 192.168.10.1
TELNET ポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」
※アンダーバーはスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220  RPC-M2C (Noname) server ready
```

- 3) 任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。
- 4) パスワードを入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答がありません。
- 5) 制御コマンドを入力して、<Enter>キーで実行します。

注意 TELNETによりログイン中にも、他のTELNETからログインすることができます。LOGコマンドで履歴を確認するなどして操作が重ならないようご注意ください。

■ 制御コマンド一覧表

制御コマンド	内 容
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n = 1 ~ 2
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n = 1 ~ 2
PORn	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート） n = 1 ~ 2
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。
PONVx	(xは1~8) debWakeUpInterval後にマジックパケットを送信する。
OLSn	<p>死活監視状態の表示 n = 1 ~ 2 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。</p> <p>Outlet No. アウトレット番号[1 ~ 2] Power 電源状態[0 : Off 1 : On] Judge 判定[1 : 正常 2 : 異常 3 : 回復中] Action Count Action 実行回数 Last Ping1 アドレス1の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常] No Echo Count1 アドレス1の未応答回数 No Echo Time1 アドレス1の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答] Last Ping2 アドレス2の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常] No Echo Count2 アドレス2の未応答回数 No Echo Time2 アドレス2の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答] Last Ping3 アドレス3の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常] No Echo Count3 アドレス3の未応答回数 No Echo Time3 アドレス3の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答] Last Ping4 アドレス4の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常] No Echo Count4 アドレス4の未応答回数 No Echo Time4 アドレス4の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]</p>
VER	バージョンの表示

POS	全アウトレットの電源状態取得 応答：mmmm 左側からアウトレット1～2 m=0：OFF 1：ON
XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答：ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット1～2 A=0：OFF 1：ON B=0：OFF 遅延中 1：ON 遅延中 XXXX=Bのタイマ残り時間
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。
TELNET	変数「ipAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートにTELNETクライアントとして接続します。 DiscCharに設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね40Kバイト以下でご利用ください。
DATE	年月日設定 例) DATE yy/mm/dd yy：年 mm：月 dd：日
TIME	現在時刻設定(秒は省略可) 例) TIME hh:mm:ss hh：時 mm：分 ss：秒
PING	I CMPを4回送信します。 例) PING [IPアドレス]
IPCONFIG	L A Nの通信設定を表示します。(例) IpAddress 192.168.10.2 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateway 192.168..10.1 EthernetSpeed 100.0Mbps
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。
PROMPT=n	0 (プロンプト表示無し) 1 (「>」のプロンプト表示) 2 (「 機器名 >」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

■ 応答コマンド

- 正常受付 : Command OK
- 不正なコマンド : Unrecognized command
- 前コマンドの処理中のためコマンド実行せず : Last command is pending. Command failed.

2. メールからの制御

メールを利用して電源制御ができます。

メールからのコマンドを利用するには、通信設定ならびにメール設定を正しく行う必要があります。メールからのコマンドには、ログイン方式とパスワード方式があります。また、メール制御許可アドレスが通知先アドレスのみの場合は、通知先として登録したメールアドレスからの制御のみが有効となります。

ログイン方式

1. 本装置にメールを送信します。
 - (ア) 件名(タイトル)は特に必要ありません。
 - (イ) 本文1行目に「login」と入力します。
2. 数分後、本装置からメールが届きます。
 - (ア) ログインのための数値が知らされます。
3. 再び、本装置にメールを送信します。
 - (ア) 件名(タイトル)は特に必要ありません。
 - (イ) 本文1行目に、ログインのための数値を記入します。
 - (ウ) 本文2行目以降にコマンドを記入します。
 - ①コマンドを記入し改行を入れます。
 - ②コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。
 - ③「QUIT」コマンドでログアウトします。「Q」または「E」の1文字だけでもログアウトします。
 - ④自動ログアウト時間を経過するとログアウトします。
4. 数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。
5. ログイン中でも他のメールからのログインを受付ます。

パスワード方式

1. 本装置にメールを送信します。
 - (ア) 件名(タイトル)は特に必要ありません。
 - (イ) 本文1行目にパスワードを入力します。
 - (ウ) メールパスワードは変数[mailCommandPassword]の値になります。(デフォルトは空) 変数の変更方法は、1-2 TELNETコマンドによる設定をご覧ください。またMenuから9)メール設定、1)メールサーバ設定、13)メール制御パスワードでも設定できます。本文2行目以降にコマンドを入力します。
 - ①コマンドを記入し改行を入れます。
 - ②コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。
 - ③「QUIT」コマンドでログアウトします。「Q」または「E」の1文字だけでもログアウトします。
2. 数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。

3. WEBコマンドからの制御

WEB からダイレクトコマンドで電源制御ができます。

WEB コマンドでの制御方法

WEB コマンドは主に電源制御のためのコマンドであり、設定の変更は出来ません。
cmd.htm の後に下記のフォーマットで記入します。

```
?userid=[ユーザーID] &password=[パスワード] &command= [利用コマンド]
```

例) ユーザーID admin / パスワード magic / コマンド por3

```
http://192.168.10.1/cmd.htm?userid=admin&password=magic&command=por3
```

変数名を省略も可能です。

```
?userid > ?i &password > ?p &command > ?c  
http://192.168.10.1/cmd.htm?i=admin&p=magic&c=por3
```

利用可能コマンド

利用可能ユーザーLv[ident control admin]

- VER
- POS
- XPOS
- OLS
- OLSn

利用可能ユーザーLv[control admin]

- PONn
- POFn
- PORn
- MPON
- MPOF
- MPOR

第7章

ログイン機能

1. ログ機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを 1000 件記録します。1000 件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

注意 本体電源が切断された場合または本体前面の RESET スイッチが押された場合、ログと記録時間がリセットされます。

1) TELNET による設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し Enter>キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

変数値については次項「**■ログ制御変数のビット構成**」を参照してください。

① 記録モードの変数名とコマンド

変数名 : logMode
コマンド : .logMode

② 表示モードの変数名とコマンド

変数名 : logDisp
コマンド : .logDisp

③ 接続中の表示のみを変更するコマンド

(通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。)

コマンド : LOGDISP

■ログ制御変数のビット構成

値は最下位を 0 ビットとし、19 ビットの構成になっています。

0 : 無、1 : 有

ビット

18 : 未使用
17 : 変数設定、write
16 : PPPoE 関連
15 : 未使用
14 : 未使用
13 : TELNET ログイン・ログアウト
12 : TELNET 接続・切断
11 : Web ログイン・ログアウト
10 : Web 接続
9 : メールログイン・ログアウト

ビット

8 : メール不正アクセス
7 : ユーティリティログイン・ログアウト
6 : ユーティリティ接続・切断
5 : 未使用
4 : 電源制御コマンド
3 : 未使用
2 : ping 監視によるイベント
1 : ping 無応答
0 : ping 送信

TELNET 通信による設定例

- ・ ping 監視によるイベント、電源制御コマンド、電源障害のログを記録する場合
`.logMode=00000000000000110100`

- ・ 全て表示する場合
`.logDisp=11111111111111111111` (デフォルト)

- ・ 接続中に「変数設定」だけ表示とする場合
 変数を変更せずに LOGDISP コマンドで表示を変更できます。
`LOGDISP=11000000000000000000`

■ ログ表示コマンド

コマンド	内 容
LOG	ログの表示 (連番号順)
LOG n	ログの表示 (最新 n 個)
LOGTIME	e = t ログ開始からの経過秒 = 現在時刻 e0 = t0 NTP 接続までの経過秒 = 最初の取得時刻 NTP 無効の場合は e のみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

ログの表示数は 20 項目です。
 <Enter>キーで続きの 20 項目を表示します。

■ ログの表示形式

nnn ttt a b xxxxxxxx c

- nnn : 連番号
- ttt : NTP 無効時: 記録開始からの時間 (秒)
- yy.mm.dd hh:mm:ss : NTP 有効時: 年月日時分秒
- a : アウトレット番号
- b : PING 送信先番号 (1~4 番)
- xxxxxxx : イベント
- c : IP アドレス

■記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント（記録・表示のモード設定があります。）	
Ping	ping 送信
No Echo	ping 無応答
監視設定（Action）に基づくイベント	
No Action	処理なし
Outlet Reboot	電源リブート
Outlet On	電源 ON
Outlet Off	電源 OFF
スケジュールの場合は、「by Schedule」、と表示されます。	
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットのリブート （電源リブート）
アクセスによるイベント（接続先IDが表示されます。）	
--> Uty	ユーティリティ接続
==> Uty	ユーティリティログイン
<=> Uty	ユーティリティログアウト（切断）
<-- Uty	ログインしないで切断
WEB,MAIL,TELNET の接続、ログインなどもこれに準じます	
mode に関係のない表示	
Mail Error	メール送信エラー
NTP Server Access Error	NTP サーバ接続エラー。 3回続けて失敗した場合。
NTP --- hh:mm:ss	NTP サーバ接続

第 8 章 PPP over E の使用

1. PPPoE について

本装置は PPPoE を搭載しています。通信事業者の PPPoE サーバに対する、PPPoE クライアントとして、ご利用いただけます。

2. 設定について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下の変数をご用意しています。変数の変更は、コマンドから行います。

また、◎の変数は設定ユーティリティのメニューから設定を行えます。

◎pppMode	1:常時接続モード 0:コマンド接続モード (初期値 0)
◎pppUserId	ユーザー ID
◎pppPassword	パスワード
pppMyMru	自局側 MRU (初期値 1454)
pppNoReplyInterval	無応答判定時間 (秒、初期値 2)
pppConnectInterval	常時接続リトライ間隔 (秒、初期値 30)
pppReconnectInterval	自動再接続間隔 (秒、初期値 5:フレッツ仕様では 5 以上)
pppLcpEchoInterval	LCP のエコー送信間隔 (秒、初期値 30)
pppLcpEchoCount	LCP リンク解放までの無応答回数 (初期値 10)
ppplcmpEchoInterval	ICMP のエコー送信間隔 (秒、初期値 0)
ppplcmpEchoCount	IP リンク解放までの無応答回数 (初期値 5)
pppLogMode	1:接続・解放等のログを記録 0:記録しない (初期値 1)

3. 制御について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下のコマンドをご用意しています。

PPPCONN	接続動作を開始 pppUserId と pppPassword が設定されていて、かつ初期状態なら動作を開始し Command OK と表示する。そうでなければ Command failed と表示する。
PPPDISC	切断動作を開始 常に Command OK と表示する。初期状態なら何もしない。
PPPSTAT	状態表示 常時接続モードでも、コマンドを使用できる。

4. 動作について

PPPoE 機能ご利用時の動作を説明します。

常時接続モード (pppMode=1)

- ・立ち上げ時に pppUserId と pppPassword が設定されていれば、自動的に接続動作を開始します。接続が不成功なら pppConnectInterval の間隔でリトライを続けます。
- ・接続後、通信中に切断された場合は、pppReconnectInterval 後に接続をリトライします。
- ・PPPDISC コマンドで切断した場合は、PPPCONN コマンドを実行しない限り接続動作は開始しません。この PPPCONN コマンドによる接続が不成功でも、リトライはしません。

リセット時の動作

- ・接続時に CPU リセット (ウォームスタート) を行うと、自動的に切断します。常時接続モードであれば、その後あらためて接続動作を開始します。

DNS サーバアドレス取得

- ・IPCP 接続手順で取得したアドレスを変数 ipAdDnsServer に自動的に設定します。

LED の表示

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ・ケーブル抜け状態 | 0.25 秒点灯、0.25 秒消灯 |
| ・PPPoE 接続、通常状態 | 2 秒点灯、0.5 秒消灯 |
| ・PPPoE 接続、障害または復旧中 | 0.5 秒点灯、0.5 秒消灯 |
| ・その他の状態 | 1 秒点灯、1 秒消灯 |

状態表示

- ・PPPSTAT コマンドでは、フェーズ (p) とサブフェーズ (s) を、p-s として表示します。
例: タイムアウトとリトライを繰り返した後、初期フェーズに戻るが、状態表示は次のようになる。
PPPSTAT 0,1-1 これは 1-1 の状態で接続が不成功となり、初期フェーズになったことを示します。
- ・1-3 と 3-3 は、状態としては存在しません。PPPSTAT 0, のあとに続く表示としてだけ用いられます。例えば、PPPSTAT 0,3-3 となったら、認証失敗を示します。
- ・接続フェーズでは、等号に続けて IP アドレスも表示します。

各状態の説明

フェーズとサブフェーズの組み合わせで状態が決まります。

フェーズ

- 0: 初期フェーズ
- 1: Discovery フェーズ
- 2: LCP フェーズ
- 3: CHAP フェーズ
- 4: IPCP フェーズ
- 5: 接続フェーズ
- 6: 切断フェーズ

サブフェーズ

各フェーズごとに定義されます。(初期フェーズと切断フェーズには存在しません)

Discovery フェーズ

- 0: 初期
- 1: PADI 送信、PADO 待ち
- 2: PADR 送信、PADS 待ち
- 3: PADS エラー
- 4: リンク確立

LCP フェーズ、IPCP フェーズ

- 0: 初期
- 4: Closing
- 6: Req-Sent Config-Req 送信、Config-Ack 待ち、Config-Req 待ち
- 7: Ack-Rcvd Config-Req 送信、Config-Ack 受信、Config-Req 待ち
- 8: Ack-Sent Config-Req 送信、Config-Req 受信、Config-Ack 送信、Config-Ack 待ち
- 9: リンク確立

CHAP フェーズ

- 0: 初期
- 1: Challenge 待ち
- 2: Result 待ち
- 3: エラー-Result
- 4: OK

接続フェーズ

- 0: 通常
- 1: 障害
- 2: 復旧中

無応答判定

無応答判定時間[変数 `pppNoReplyInterval`]は、以下の場合に適用します。

- ・ PADI に対する PADO 待ち
- ・ PADR に対する PADS 待ち
- ・ LCP,ICPC で Config-Req に対する Config-Ack,Config-Nak 待ち
- ・ LCP,ICPC で Config-Req 待ち
- ・ LCP,ICPC で Term-Req に対する Term-Ack 待ち
- ・ LCP で Echo-Req に対する Echo-Reply 待ち
- ・ CHAP チャレンジ待ち
- ・ CHAP リザルト待ち

接続中は、`pppLcpEchoInterval` の間隔で LCP エコー要求を送って、ノットレディでないか監視しています。`pppNoReplyInterval` 以内に応答が無いとその時点で再び送信します。無応答が `pppLcpEchoCount` の回数に達するとノットレディと見なします。

ノットレディと見なすと、接続手順を開始できるか（レディになったか）をチェックします。接続手順を開始できるようになったとき（具体的には PADI に PADO が返ってきたとき）、あらためて LCP エコー要求を送る。応答があれば、接続状態に戻ったと見なします。応答が無ければ、接続手順を開始し、再接続します。（ただし常時接続モードでなければ、再接続はしません）

接続中に、`ppplcmpEchoInterval` の間隔で ICMP エコー要求を送って、IP リンクが解放されていないか監視できます。無応答が `ppplcmpEchoCount` の回数に達すると、IP リンク解放と見なし、常時接続モードなら再接続を行います。初期値は `ppplcmpEchoInterval` が 0 ですので、ICMP エコー要求は送りません。

LCP エコーと ICMP エコーを除いては、リトライ回数は 3 になっています。

ログ記録

変数 `logMode` の 16 ビットが有効な場合は、以下のものがログに記録されます。

PPPoE Connect	接続した。IP アドレスも表示
PPPoE Disconnect	切断した
PPPoE Disconnected	切断された
PPPoE Modem Down	ノットレディになった
PPPoE Modem Up	レディになった
PPPoE Continue	接続状態に戻った
PPPoE IP Link Release	IP リンクが解放された

第 9 章 SNMPの使用

1. SNMPについて

本装置はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理、電源制御を統合的に行うことができます。

2. 機器設定

本装置を TELNET 接続にて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

- ① SNMPのSET、GET有効化
変数 : snmpGetSetEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)

- ② SNMP TRAPの有効化
変数 : snmpTrapEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)

- ③ SNMP不正アクセス時のTRAP通知
変数 : snmpAuthenTrapEnabled
デフォルト : 2
(1:有効 2:無効)

- ④ TRAP送信回数
変数 : snmpTrapSendN
デフォルト : 1
(1~9)

- ⑤ TRAP送信間隔(秒)
変数 : snmpTrapSendInterval
デフォルト : 1
(1~9)

- ⑥ TRAP送信先アドレス
変数 : snmpTrapAddr
デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
(8箇所)

- ⑦ SNMP 用フィルターの有効化
 変数 : snmpFilterEnabled
 デフォルト : 0
 (0:無効 1:有効)
- ⑧ フィルター有効時許可するアドレス
 変数 : snmpFilterAddr
 デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
 0.0.0.0,0.0.0.0
 (10箇所)
- ⑨ フィルター有効時のMask
 変数 : snmpFilterEnabled
 デフォルト : 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255
 (10箇所)
- ⑩ SNMP GET コミュニティ名
 変数 : getCommunity
 デフォルト : Public
- ⑪ SNMP SET コミュニティ名
 変数 : setCommunity
 デフォルト : Public
- ⑫ SNMP TRAP コミュニティ名
 変数 : trapCommunity
 デフォルト : Public

3. MIBについて

本機を管理するためのプライベートMIBを準備しています。
当社ホームページ(<http://www.meikyo.co.jp>)よりMEIKYO.MIBをダウンロードし、ご利用ください。

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機の管理をNMS上で行うことができます。

注意	MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。
-----------	---

第 10 章
ネットワーク
稼動監視

1. 機器設定

本装置から UDP のパケットを送出し、電源状態を通知することができます。「RPC-EYE v3」(オプション 有償ソフトウェア)を利用すれば、各機器からのパケットを受信し一元管理することができます。

下記の変数を設定してください。(①～④は WEB 通信詳細画面により設定できます)

① 状態通知機能

変数 : msrpEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)

RPC-EYE v3 を使用するパソコンのアドレスを設定します。

② 送信先アドレス

変数 : ipAdCenter
デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
(3箇所)

RPC-EYE v3 を使用するパソコンのポート番号を設定します。

③ ポート番号

変数 : centerPort
デフォルト : 5000

情報を通知する間隔を設定します。

④ 定期通知の送信間隔 (秒)

変数 : centerSendTimer
デフォルト : 300

電源変化時は、定期通知間隔を待たず直ちに通知します。その時の通知回数を設定します。

⑤ 電源変化時の通知回数

変数 : centerChangeSendCount
デフォルト : 3

電源変化時の通知の2回目以降の通知間隔を設定します。

⑥ 電源変化時の通知間隔 (秒)

変数 : centerChangeSendTimer
デフォルト : 10

2. RPC-EYE v3 の利用

RPC-EYE v3 は、RPC シリーズからの送信情報を利用して、各拠点のネットワークの稼動状態をリアルタイムで監視するネットワーク稼動監視ソフトです。
以下の特長があります。

- ・ 死活監視 温度状態 電源状態の表示と監視
- ・ アイコンによるビジュアルな状態表示
- ・ リアルタイムに見れる詳細な情報ビューア
- ・ 温度状態のグラフによる表示 (RPC-M2C は非対応)
- ・ 受信情報のデータ保存 (CSV 形式)
- ・ 状態変化時に E-MAIL 又は音による通知機能
- ・ 個別の機器への接続機能 (HTML or TELNET)
- ・ 管理する機器は論理上 1000 台まで可能です。
- ・ 1 本のソフトで PC 3 台まで利用できます。

詳細、購入方法等は下記のアドレスで確認ください。

<http://www.meikyo.co.jp/products/reye.html>

設定前の確認

- 設定用 PC と本装置を LAN で確実に接続してください。
- RPC -EYE v3 を PC にインストールしてください。
RPC -EYE v3 は Windows2000/XP/Vista 対応ソフトです。
RPC -EYE v3 の設定、利用方法は、RPC -EYE v3 説明書 (PDF ファイル) をご覧下さい。

第 11 章 仕様一覧

■ 変数一覧表

変 数 名	初 期 値	内 容	備 考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IP アドレス	
ifPhysAddress	(機器毎)	MAC アドレス (ReadOnly)	
serialNo		未使用	
keyCode		キーコード: 自動生成	
keyCheck	0	キーチェック	0:無効 1:有効
sysName	Noname	機器名称	全角 9 文字 半角英数字 19 文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMP の SET、GET の有効化	0:無効 1:有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAP の有効化	0:無効 1:有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP 不正アクセス時の TRAP 通知	1:有効 2:無効
snmpTrapSendN	1	TRAP 送信回数	1~9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP 送信間隔(秒)	1~9
snmpTrapAddr		TRAP 送信先アドレス	"/" 区切りで 8 箇所以内
snmpFilterEnabled	0	SNMP 用フィルタの有効化	0:無効 1:有効
snmpFilterAddr		フィルタ有効時許可するアドレス	"/" 区切りで 10 箇所以内
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	フィルタ有効時の Mask	10 箇所
getCommunity	public	SNMP GET コミュニティ名	
setCommunity	public	SNMP SET コミュニティ名	
trapCommunity	public	SNMP TRAP コミュニティ名	
sysDescr	*1 文字列	(ReadOnly)	
sysContact	inforpc@meikyo.co.jp	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角 31 文字 半角英数字 63 文字以内
ifDescr	*2 文字列	(ReadOnly)	
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest		デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTP リトライ回数	
netRarpRetry	0	RARP リトライ回数	
telnetEnabled	1	TELNET の有効化	0:無効 1:有効
telnetPort	23	TELNET のポート番号	
utilityPort	9000	UTY のポート番号	
loadPort	9100	ファームウェアローダーの ポート番号	
fileLoadPort	9200	HTTP ファイルをロードするポート	
httpEnabled	1	HTTP の有効化	0:無効 1:有効
httpPort	80	HTTP のポート番号	

httpRefreshInterval	30	HTTP 自動更新間隔	
httpRefreshEnabled	0	HTTP 自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTP コマンドの有効化	0:無効 1:有効
dhcpEnabled	1	DHCP の有効化	0:無効 1:有効
ipFilterEnabled	0	IP フィルタの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterAddr		IP フィルタアドレス	"/" 区切りで 10 箇所以内
ipFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IP フィルタマスク	10 箇所
model	RPC-M2C	モデル名 (ReadOnly)	
version		バージョン表示 (ReadOnly)	
debTcplInactiveTimer	10	TELNET 通信時の 無通信タイム(分)	
userLoginTimeout	600	HTTP 自動ログアウト時間	
debMasterRebootTime	10	全アウトレットリポート時の OFF 時間(秒)	8~3600 の整数
debOIPowerOnTime	1,2	各アウトレットの ON 時間	左→右 1→2 アウトレット -1~3600 の整数
debOIShutdownTime	0,0	各アウトレットの OFF 時間	左→右 1→2 アウトレット -1~3600 の整数
debOIRebootTime	10,10	各アウトレットの REBOOT 時間	左→右 1→2 アウトレット 8~3600 の整数
debOIWdogAddr		監視先 IP アドレス	左→右 1→2 アウトレット "/" 区切りで 8 箇所以内
debOIWdogSendMax	10,10	PING 監視 送信回数	左→右 1→2 アウトレット 1~100 の整数
debOIWdogNoResMax	10,10	PING 監視 無応答回数	左→右 1→2 アウトレット 1~100 の整数
debOIWdogActCond	1,1	PING 監視 監視対象数	1~4(整数)
debOIWdogAction	0,0	PING 監視 Action	0:noPing 1:noAction 2:Reboot 3:On 4:Off
debOIWdogActCount	0,0	PING 監視 Action 回数 (ReadOnly)	
debOIWdogStatus	0,0	PING 監視判断 (ReadOnly)	0:未設定 1:正常 2:異常 3:回復中
debOIRebootCount	1,1	PING 監視 再 Reboot 回数	左→右 1→2 アウトレット
debOIRebootInterval	1,1	PING 監視 再 Reboot 間隔(秒)	左→右 1→2 アウトレット
debOIPopErrorMax	0,0	PING 監視 POP サーバーへの連続アクセス異常回数	0:機能無効
debOIWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0	PING 監視 最終応答 (ReadOnly)	0:未設定 1:正常 2:異常
debOIWdogDefGateway	0,0,0,0,0,0	PING 監視 デフォルトゲートウェイ	0:無効 1:有効

promptMode	2	TELNET プロンプトモード	0:無し 1:「>」の表示 2:「機器名>」の表示
modemEnabled	0	モデムの有効化	0:無効 1:有効
modemTimeout	10	モデムタイムアウト時間(分)	
logMode	00 0111 1111 1111 1111 0100	ログ記録モード(21 ビット)	0:無効 1:有効
logDisp	00 0111 1111 1111 1111 1111	ログ表示モード(21 ビット)	0:無効 1:有効
mailLogCount	0	メールで送信する更新されたログの数	0:無効 1~20:閾値
mailLogDisp	00 0111 1111 1111 1111 1111	メールで送信するログモード(21 ビット)	0:無効 1:有効
ipAdNtpServer		NTP サーバの IP アドレス	
ntpInterval	6	NTP サーバへのアクセス間隔(10 分)	
msrpEnabled	1	状態通知の有効化	0:無効 1:有効
ipAdCenter		監視情報送信先 IP アドレス(3 箇所)	
centerPort	5000,5000,5000	監視情報送信先ポート	
terminalId	0	監視情報用 ID 番号	0~9999
centerSendTimer	300	監視情報送信間隔(秒)	
centerChangeSendTimer	10	状態変化時の送信間隔(×100 ミリ秒)	
centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
ipAdTelnetT		TELNET からの TELNET 中継先アドレス	
ipAdTelnetU		UTY からの TELNET 中継アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TELNET からの TELNET 中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTY からの TELNET 中継ポート	
remoteTelnetMyPort	5000	TELNET 中継時の発信ポートベース番号	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	
pppMode	0	PPPoE 常時接続モード	0:無効 1:有効
pppUserId		PPPoE ユーザーID	
pppPassword		PPPoE パスワード	
pppMyMru	1454	自局側 MRU	
pppNoReplyInterval	2	無応答判定時間(秒)	
pppConnectInterval	30	常時接続リトライ間隔(秒)	
pppReconnectInterval	5	自動再接続間隔(秒)	
pppLcpEchoInterval	30	LCP のエコー送信間隔(秒)	
pppLcpEchoCount	10	LCP のリンク解放までの無応答回数	
pppIcmpEchoInterval	0	ICMP のエコー送信間隔(秒)	
pppIcmpEchoCount	5	IP リンク解放までの無応答回数	
pppStat	0,0,0	PPPoE の状態(ReadOnly)	
pppAddress		PPPoE IP アドレス	
pppConnTime	0:00:00	接続後の経過時間(秒)	0:無接続
ispName		ISP の名称	全角 31 文字 半角英数字 63 文字以内
debWakeupPhysAddr		WOL 設定	“ ” 区切りで 2 箇所以内
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV		仮想アウトレット用の WOL 設定	“ ” 区切りで 8 箇所以内

popPort	110	POP3 ポート	0~65535
smtpPort	25	SMTP ポート	0~65535
mailRetryCount	3	メールリトライ回数	1~99
mailRetryInterval	10	メールリトライ間隔(秒)	1~999
ipAdPopServer		POP3 サーバアドレス	
ipAdSmtpServer		SMTP サーバアドレス	
etherSpeed	2	接続速度	0: 接続していない 1: 10.0Mbps 2: 100.0Mbps
pingPktSize	16	PING パケットのデータ長	16~1472
resetCause	1	リセット原因表示	
popErrorCount	0	PING 監視 POP サーバへのアクセスエラー回数	0: 表示のみ
ledBlinkEnabled	1	LED の点滅の有効化	0: 無効 1: 有効
broadGroup	0	一斉電源制御の有効化	0: 無効 1~8: グループ
broadPhysAddr		一斉電源制御側 MAC アドレス	

*1 文字列 Meikyo Remote Power Controller, RPC-M2C Ver. 1.10A

*2 文字列 Meikyo 100BASE-TX Driver

■ ログ一覧表

内 容	情 報	TELNET などの LOG
ログ開始		Log Start
PING 送信	outlet no. Ipaddr no.	ping
PING 無応答	outlet no. Ipaddr no.	No Echo
死活判定(NoAction)	アウトレット no.	No Action
死活判定(REBOOT)	アウトレット no.	Outlet Reboot
死活判定(アウトレット ON)	アウトレット no.	Outlet On
死活判定(アウトレット OFF)	アウトレット no.	Outlet Off
正常/回復中	アウトレット no.	Outlet Recovered
スケジュール(REBOOT)	アウトレット no.	Outlet Reboot by Schedule
スケジュール(アウトレット ON)	アウトレット no.	Outlet On by Schedule
スケジュール(アウトレット OFF)	アウトレット no.	Outlet Off by Schedule
全アウトレット ON	アウトレット ALL ID (ID は接続者)	MPON
全アウトレット OFF	アウトレット ALL ID (ID は接続者)	MPOF
全アウトレット REBOOT	アウトレット ALL ID (ID は接続者)	MPOR
アウトレット ON	アウトレット no.ID (ID は接続者)	PON
アウトレット OFF	アウトレット no.ID (ID は接続者)	POF
アウトレット REBOOT	アウトレット no.ID (ID は接続者)	POR
UTY 接続	IPaddr	→Uty
UTY ログインせず切断	IPaddr	←Uty
UTY ログイン	Ipaddr ID (ID は接続者)	⇒Uty
UTY ログアウト	Ipaddr ID (ID は接続者)	⇐Uty
メールログイン要求	Ipaddr no.(no.は設定番号)	→Mail
メールログイン	Ipaddr no.(no.は設定番号)	⇒Mail
メールログアウト	Ipaddr no.(no.は設定番号)	⇐Mail
TELNET 接続	IPaddr	→Telnet
TELNET ログインせず切断	IPaddr	←Telnet
TELNET 多重超接続	IPaddr	>>xTelnet
TELNET ログイン	IPaddr	⇒Telnet
TELNET ログアウト	IPaddr	⇐Telnet
Web 接続		→Web
Web ログイン		⇒Web
Web ログアウト		⇐Web
PPPoE 接続した	IPaddr	PPPoE Connect
PPPoE 切断した		PPPoE Disconnect
PPPoE 切断された		PPPoE Disconnected
PPPoE ノットレディになった		PPPoE Modem Down
PPPoE レディになった		PPPoE Modem Up
PPPoE 接続状態に戻った		PPPoE Continue
PPPoE IP リンクが解放された		PPPoE IP Link Release
設定変更	[変数名] ID (ID は接続者)	variable set (xxxxx)
設定書込(WRITE)	ID (ID は接続者)	write to FROM
NTP サーバ接続	hour minute second	NTP — hh:mm:ss
NTP サーバ接続エラー		NTP Server Access Error

メールエラー		Mail Error
--------	--	------------

■ 制御コマンド一覧表

制御コマンド	内 容																																
MPON	全アウトレットの電源出力開始																																
MPOF	全アウトレットの電源出力停止																																
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）																																
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n = 1 ~ 2																																
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n = 1 ~ 2																																
PORn	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート） n = 1 ~ 2																																
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転																																
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。																																
PONVx	(xは1~8) debWakeUpInterval後にマジックパケットを送信する。																																
OLSn	<p>死活監視状態の表示 n = 1 ~ 2 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。</p> <table border="0"> <tr> <td>Outlet No.</td> <td>アウトレット番号[1 ~ 2]</td> </tr> <tr> <td>Power</td> <td>電源状態[0 : Off 1 : On]</td> </tr> <tr> <td>Judge</td> <td>判定[1 : 正常 2 : 異常 3 : 回復中]</td> </tr> <tr> <td>Action Count</td> <td>Action 実行回数</td> </tr> <tr> <td>Last Ping1</td> <td>アドレス1の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount1</td> <td>アドレス1の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime1</td> <td>アドレス1の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]</td> </tr> <tr> <td>Last Ping2</td> <td>アドレス2の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount2</td> <td>アドレス2の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime2</td> <td>アドレス2の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]</td> </tr> <tr> <td>Last Ping3</td> <td>アドレス3の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount3</td> <td>アドレス3の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime3</td> <td>アドレス3の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]</td> </tr> <tr> <td>Last Ping4</td> <td>アドレス4の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount4</td> <td>アドレス4の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime4</td> <td>アドレス4の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]</td> </tr> </table>	Outlet No.	アウトレット番号[1 ~ 2]	Power	電源状態[0 : Off 1 : On]	Judge	判定[1 : 正常 2 : 異常 3 : 回復中]	Action Count	Action 実行回数	Last Ping1	アドレス1の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]	NoEchoCount1	アドレス1の未応答回数	NoEchoTime1	アドレス1の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]	Last Ping2	アドレス2の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]	NoEchoCount2	アドレス2の未応答回数	NoEchoTime2	アドレス2の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]	Last Ping3	アドレス3の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]	NoEchoCount3	アドレス3の未応答回数	NoEchoTime3	アドレス3の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]	Last Ping4	アドレス4の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]	NoEchoCount4	アドレス4の未応答回数	NoEchoTime4	アドレス4の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]
Outlet No.	アウトレット番号[1 ~ 2]																																
Power	電源状態[0 : Off 1 : On]																																
Judge	判定[1 : 正常 2 : 異常 3 : 回復中]																																
Action Count	Action 実行回数																																
Last Ping1	アドレス1の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]																																
NoEchoCount1	アドレス1の未応答回数																																
NoEchoTime1	アドレス1の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]																																
Last Ping2	アドレス2の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]																																
NoEchoCount2	アドレス2の未応答回数																																
NoEchoTime2	アドレス2の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]																																
Last Ping3	アドレス3の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]																																
NoEchoCount3	アドレス3の未応答回数																																
NoEchoTime3	アドレス3の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]																																
Last Ping4	アドレス4の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]																																
NoEchoCount4	アドレス4の未応答回数																																
NoEchoTime4	アドレス4の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]																																
VER	バージョンの表示																																
POS	<p>全アウトレットの電源状態取得 応答 : mmmm 左側からアウトレット1 ~ 2 m = 0 : OFF 1 : ON</p>																																

XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答：ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット1～4 A=0：OFF 1：ON B=0：OFF 遅延中 1：ON 遅延中 XXXX=Bのタイマ残り時間
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。
TELNET	変数「ipAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートにTELNETクライアントとして接続します。 DiscCharに設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね40Kバイト以下でご利用ください。
DATE	年月日設定 例) DATE yy/mm/dd yy：年 mm：月 dd：日
TIME	現在時刻設定(秒は省略可) 例) TIME hh:mm:ss hh：時 mm：分 ss：秒
PING	ICMPを4回送信します。 例) PING [IPアドレス]
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。(例) IpAddress 192.168.10.1 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateway 192.168.10.254 EthernetSpeed 100.0Mbps
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。
PROMPT=n	0 (プロンプト表示無し) 1 (「>」のプロンプト表示) 2 (「 機器名 >」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

■ 仕様一覧表

通信仕様	LAN 通信仕様	ARP、TCP/IP、UDP/IP、ICMP、POP3、BOOTP、DHCP、TELNET、SMTP-AUTH、NTP、HTTP、SNMP、PPPoE	
	LAN 制御方法	SNMP マネージャー、TELNET	
		TCP/IP ユーティリティ、Web E-mail	
機能	電源制御/管理	電源 ON	
		電源 OFF	
		リブート	
		電源状態取得	
	タイマー	週間(20 個)	
	状態監視	ICMP送信	
		通報機能: SNMPトラップ、UDP パケット Mail 通知	
WOL 対応機能	あり: MAGIC PACKET 送信		
ハード仕様	インターフェース	10Base-T/100Base-TX x1 (IEEE802.3 に準拠)	
	定格	最大制御出力	100V AC 10A (1000W)
		消費電力	最大 約 3.9W
		入力電源電圧	AC100V ±10% (50/60Hz)
	使用環境	温度	5~40°C
		湿度	20~85%(ただし結露なきこと)
	外形寸法	160(W) x42.5(H) x160(D)mm	
重量	1.2kg		
環境保証	RoHS 指令対応品		

問い合わせ先

明京電機株式会社

〒114-0012 東京都北区田端新町 1-1-14
東京フェライトビル 4F
TEL 03-3810-5580 FAX 03-3810-5546

ホームページアドレス

<http://www.meikyoelectric.co.jp/>

ご注意

- (1) 本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。
- (2) 本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の影響については、(3) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

WATCH BOOT nino RPC-M2C

取扱説明書 2015年 9月 第1.1c版